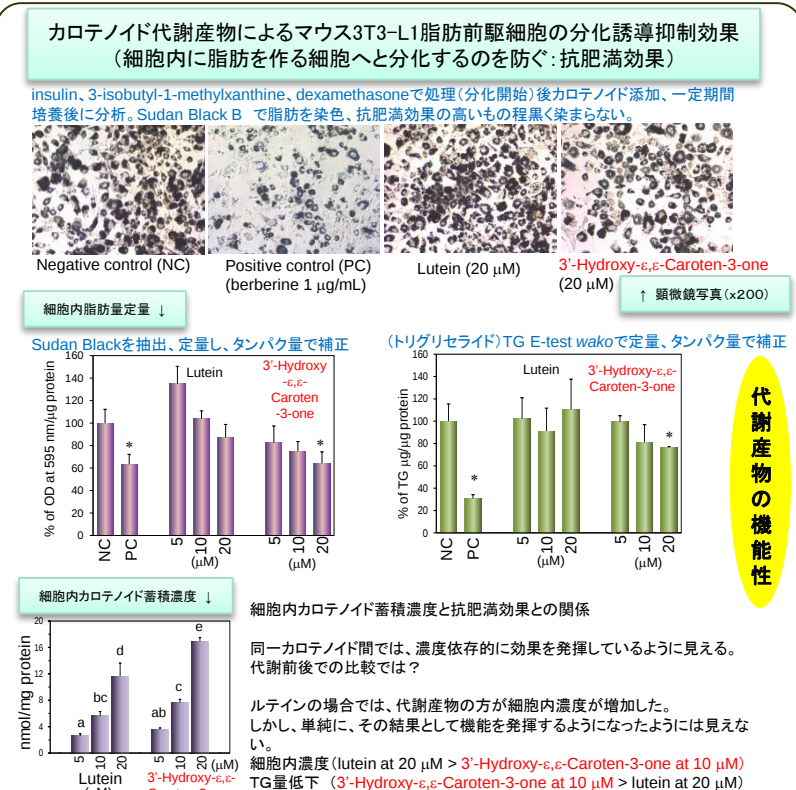
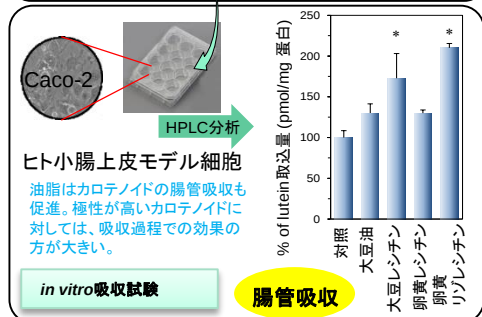
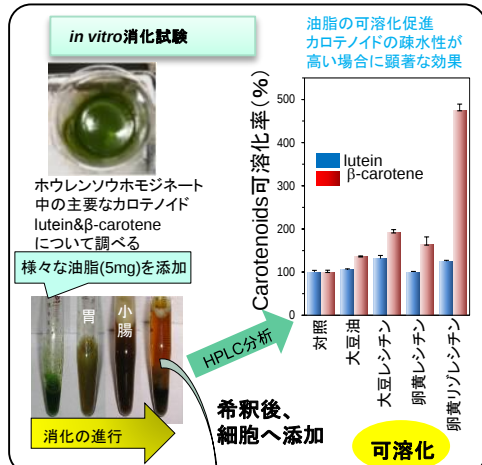
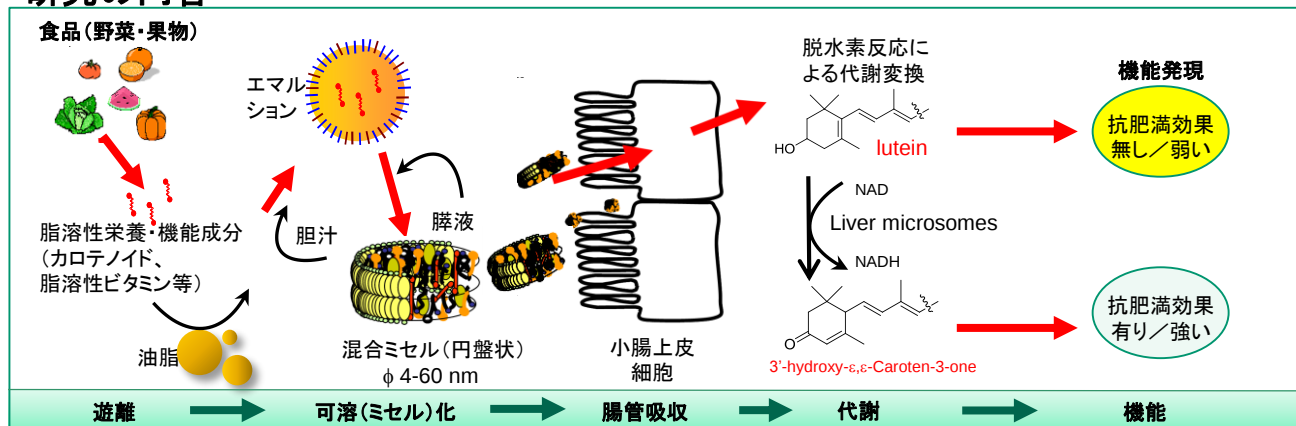


脂溶性機能成分の生体利用性と機能発現 ーカロテノイドの可溶化・吸収・代謝・機能ー

技術の特徴

脂溶性機能成分の抗酸化作用や抗肥満作用が培養細胞や動物実験にて示されているが、ヒトでは摂取した機能成分は胆汁に可溶化、腸管吸収を経て、代謝された産物が機能の一端を担うと考えられる。脂溶性成分の吸収・機能発現向上を目的として可溶化・吸収を高める(生体利用性を高める)方法の開発と同時に、代謝産物の機能研究を行っている。

研究の内容



今後の展開

in vivo吸収試験
他の栄養・脂溶性機能成分について検討
代謝酵素解明、代謝促進成分の検索

参考文献

Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry 76: 875-882 (2012)
Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry 77: 1055-1060 (2013)
日本農芸化学会2014年度大会で発表